

草原学習指導者講習会事業報告書

企画指導専門職 加治佐秀樹

1 事業概要

(1) 実施期間

平成26年8月 8日(金)

(2) 活動場所

国立阿蘇青少年交流の家(研修室・野草園)・小堀牧野

(3) 参加者

阿蘇谷編 8名(教職員:3名 一般:4名 関係機関:1名)

(4) 事業内容

阿蘇谷編 講義 「草原と人との関わり」(高橋先生)
フィールドワーク① 「草原散策」(市原さん・木部さん)
フィールドワーク② 「牛のえさやり体験」(田島さん・木部さん)
体験活動「紙すき体験」(宮野さん)
講義 「草原キッズ・プロジェクト紹介」(藤田さん)
実践発表 「草原環境学習 基本プログラム発表」(森川先生)

2 成果と課題

(1) 成果

- ① 高橋先生、木部さんの講義により、草原と人のつながりや草原や生物の多様性などを学習することができ、時代のニーズにあった草原の価値について考えることができた。参加者からも「自分のためになる。知ったことを今回参加できなかった方へぜひ話をして教えたい。」「阿蘇で生きる者として知りたいと思っていた。知ることが大切だと感じた。」「(教え子達に)阿蘇の誇りを再発見する機会を作りたい。」という感想を得ることができた。
- ② 小堀牧野、交流の家野草園のフィールドワークでは、田島さん・市原さん・木部さんの人柄に触れ、あか牛に対する愛情や草原を守る熱意をじかに感じる事ができた。
- ③ 参加者の中には、紙すきを目的としてこられている方もいた。一般の方のニーズを知る良い機会にもなった。

(2) 課題

- ① 広報のあり方を見直さないといけない。今回は、教育事務所や教育委員会への働きかけも功を奏さなかった。次年度に向けて、本年度の内に実施時期も含めて、教育事務所や委員会に協力を依頼しておかないといけない。また、研修内容の改善、研修終了後の参加者の活用方法など、草原環境学習小委員会と連携し、講習会のあり方(育成・実践)を再度検討したい。
- ② 今回は雨の中でのフィールドワークとなった。草原の素晴らしさを伝えたり、参加者に気付いたりしてもらうためにも、この事業はフィールドワークが重要であるので、実施時期を考えてもいいのかもしれない。

3 活動の様子

①小堀牧野エサやり体験



②田島組合長の講義



③市原組合長の講義



④野草園でのフィールドワーク



⑤高橋先生の講義



⑥紙すき体験活動



⑦森川先生による実践事例発表



⑧参加者の意見発表

